

<奨励賞 7団体>

■ 特定非営利活動法人 HCCグループ (滋賀)

「異文化交流で大らか子育て」

<p>団体概要</p>	<p>建築関係の技術者が建築相談を目的に設立した任意団体として1999年から始まり、主婦を中心に環境部会や福祉部会を設立し、安心安全な生産物の生産者と消費者の交流事業を開始した。目的は、「全ての人が健康で安全な仕事ができる社会の実現」であり、生活の改善に関する相談への適切な対応を事業としている。</p> <p>具体的には、まちなか交流館の委託・管理、三世代交流事業、農山漁村活性化のためのグリーンツーリズム事業など、多様なまちづくりの活動を実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>異文化交流をテーマに、主に小さな子どもを持つ母親が気軽に参加できる講座を開催する。普段、子どもを中心とした生活を送る母親にとって、自分自身のための学びや交流の場は限られ、閉塞感に陥りやすい。</p> <p>本事業では、異文化交流を切り口として、今の日本の子育てを見つめ直す機会を提供し、大らかな子育ての実践をめざしている。あわせて、保育や働き方について、各国や国内の先駆的な手法を学ぶことを通して、孤立した子育ての解放や、育児虐待のリスクを減らし、子育ての見つめなおしと母親の社会参加を探る。</p> <p>具体的には、各国の子育て事情をテーマにした「異文化講座」と、各国の母親の社会参加や国内導入事例を学ぶ「学びの講座」で、年間で延べ8回ほど行う。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、「講座の実施」というオーソドックスな手法ではあるが、異文化交流の観点から、子育てのあり方や母親の社会参加まで、いろんな要素を組み入れているのが特徴である。核家族が増え、近所付き合いも希薄な現代社会の中、子育てをする母親の不安は小さくなく、タイムリーな企画といえる。社会参加をテーマとしており、まちの課題に広がっていくことも期待でき、これらの点を高く評価した。</p> <p>今後については、母親個人が自分らしい子育てを試み、ネットワークを活かした母親達の預け合いなどの取り組みにチャレンジできるようバックアップしたいとしている。各分野における連携と協力の関係を一層強め、事業がさらに発展することを期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 子育てネットくるみの会（大阪）

「お母さんが地域につながる居場所づくり～みんなでお母さん大好き！の声を聞こう～」

<p>団体概要</p>	<p>助産師が代表の任意団体として2002年から活動開始。日頃の業務の中で巡り会う、不安や孤立の強い母親のフォローの場として、少し経験のある母親と交流できる場を提供してきた。事業運営について、母親がリーダーになるにつれて、地域の子育て支援を担う活動に発展し、2008年にNPO法人化して現在に至る。</p> <p>主な活動内容として、月に1回2時間の「定例会形式の子育てサークル」にて、ベビーマッサージ講習会や手遊び、産前産後の体操などを通じた交流を行う。また、「くるみハウス」では、いつでも集える場として、助産師・保育士配置も行い、さまざまな企画を行うなど、子育て支援の拠点としての事業を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、子育て中の親子がいつでも集い、昼食を共にしながら集団で育児を楽しむ「くるみハウス」での活動である。核家族化と転勤などで分断された地域とのつながりを新米の親でも作ることが出来るファーストステップとして、産後早期の親の不安や孤立を軽減しつつ、子育てを通して生まれる人とのつながりの楽しさを伝えることを目的としている。</p> <p>具体的には、枚方市での食事付き子育て支援拠点事業は初の試みで、助産師・保育士による妊娠中から出産および幼児期までの継続した情報提供と支援をし、地域のつながりを強化することで虐待防止を図る。また、企画行事を通じた女性の社会経済活動も促進する。</p>
<p>講評</p>	<p>「子どもの虐待」の背景には、新米の母親の育児不安や孤立があるといわれている。地域とのつながりがあれば、早期発見から問題解決、さらには育児の楽しさを感じ取ることができ、「虐待」を未然に防ぐことも出来る。また、親子が集う拠点へのニーズは高く、切実に求められている事業である。その内容も、食事の提供や助産師・保育士の配置など、創意工夫をこらし独自性があり、高く評価できる。</p> <p>今後は、地域におけるさまざまな支援ネットワークの中で連携を強化することにより、プログラムの充実が図られることを期待したい。</p>

- Jafore (ジャフォール) 日本語を母語としない家族のための子育て支援チーム (京都)  
「仲間づくり、視野を広げるきっかけづくりを応援! “多言語子育てひろば” の試み」

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">団体概要</p>	<p>日本語を母語としない家族は、さまざまな不便や不安を抱えながら、言葉の壁から情報が届かないため、地域と距離を置く傾向がある。そのような中、子育て家族に平等に情報が届き、一緒に子育てを応援したいとの気持ちから 2010 年に発足。</p> <p>具体的な活動としては、毎月発行される「左京子ども支援センターだより」の英語翻訳のウェブサイト掲載、子育て情報、教育・学校関連文書の翻訳サービスや、保育園・幼稚園の入園手続きへの同行・相談・アドバイスなどを行っている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">事業概要</p>	<p>京都市左京区周辺には外国籍の子育て家族が多いが、情報不足と言葉の問題による孤立感がある。一方、異文化に関心が高い日本人も多いが、話すきっかけがない。</p> <p>本事業では、国籍を問わず親子が集える「多言語子育て広場」を設ける。子育てという共通項からお互いの話に耳を傾け、日本の習慣や文化を知る機会となり、育児中に狭くなりがちな視野を広げるきっかけをつくる。さらに、日本人家族も世界に関心を広げながら日本の育児のあり方について考えるきっかけにもなる。</p> <p>具体的には、英語での子育てサイトでの情報発信と、毎月「多言語子育てひろば」を開設し、情報の共有や、日本語表現や外国の子育てについて学ぶ。そして、このひろばで提供された話題をもとに、「多文化子育てハンドブック」を作成し、親子がさまざまな価値観を学ぶ楽しさを知る内容としている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">講評</p>	<p>2010 年 5 月に発足した新しい団体で、まだ実績はないが、京都の子育てネットワークにも所属し、京都社会福祉協議会、地域の民生児童委員など、さまざまな関係団体との連携を図り、協力を得ながら進めている。活動が離陸すれば、持続可能な事業であり、これからの期待が持てる。</p> <p>意外と京都には多文化共生的な活動は少なく、立ち上げを応援する意味は小さくない。また、事業の内容が外国人家族のためだけでなく、日本人家族にとっても視野を広げる機会としており、評価できるポイントでもある。今後は本助成を活かし、団体の活動を強固にして、展開をさらに広げて欲しい。</p>

■ ドングリネット神戸（兵庫）

「ドングリ銀行神戸～こどもたちとこうべの街に森をつくろう～」

<p>団体概要</p>	<p>阪神大震災をきっかけに、「こうべの街にみんなで森をつくろう」を目標に掲げ、被災地を中心に活動を開始した。ドングリを集めて預け、払い戻しに苗木と交換する「ドングリ銀行」のシステムを香川県林務課に教わり、誰でもが楽しみながら街の緑化に参加できる仕組みを提供し、長く続けられる緑化活動を展開している。</p> <p>具体的には、「ドングリ銀行神戸」の窓口を公園などの各所に開設しドングリと苗木を交換、また、市民参加型の植樹イベントの開催、小・中学校にスタッフを派遣して共同育成や環境教育などを行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、「ドングリ銀行神戸」の窓口を公園などに開設することを中心に、ドングリ工作やドングリマーケット、市民参加型の植樹イベント、出前授業、中学生との苗木育成と下刈りなど、子ども達が複合的に参加できる環境プログラムの実施である。</p> <p>「ドングリ銀行神戸」で、「遊んでいて気がつけば森ができた」を合い言葉に、遊びの延長に緑化がある状況をつくり、一人ひとりがつながりを感じながら、身近な自然に興味を持ってもらい、緑化への参加意識を高めることを目的としている。期間中に約5万個のドングリの種まきと200本の植樹を行う予定で、ドングリという身近な自然を窓口として、子どもも楽しみながら積極的にまちの緑化に参加するものである。</p>
<p>講評</p>	<p>環境問題に視点を当てたものであり、環境団体が子育て支援活動にアプローチした事業といえる。1995年に始まったドングリ銀行神戸は、活動の参加者も5万人を超え、ドングリを集め預ける「預ドングリ者」も2000人を超え、活動の定着も見られる。これらの実績も含めて、出前授業など、幼稚園・保育所、小中学校との協働での取り組みや連携もとれており、学校教育の中での位置づけを図っていこうとする取り組みは、共感と市民参加の点からも高く評価できる。</p> <p>今後、未来を担う子ども達が、環境問題や緑化に対して意識を高め、心豊かな活動により発展することを期待したい。</p>

■ ハグクミン（京都）

「紙芝居で子ども達の穏やかな成長を応援し、食を選ぶ力を養う“食育紙芝居”」

<p>団体概要</p>	<p>管理栄養士・看護師・助産師の専門職として仕事をする中で、若年者ほど健康や食生活に対して無関心だと感じる事が多くある。そのような人が親になり、子ども達の未来を考えた時、正しい知識を伝えると同時に、よりよい食生活・生活習慣を選び取る力をつけることが重要と思い、2008年から活動を開始。紙芝居を媒体にして子ども達に選び取る力をつけてもらい、子どもを通して親も変えていくことをめざしている。</p> <p>具体的には、紙芝居を使った健康教室、実際の野菜を使い五感を生かした教室、幼稚園の保護者への食育・健康教育などを実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、子ども達が生活や食事において何を選ぶべきなのか、自分で選び取ることが出来る大人になることを願って、食育と健康に関する分かりやすい紙芝居を新たに作成し、講座を開催するものである。</p> <p>昨年は1園のみの実施であったが、延べ1800人の園児に紙芝居を実施し、延べ60人の保護者教室を行った。その実績を広げるために、今回オリジナルの紙芝居を作ることで、訪問園を増やし、地域の行事にも積極的に参加する。具体的には、幼稚園・保育園での紙芝居による食育・健康教育、保護者への年2回の保護者教育を実施する。子どもは健康教室に参加することで、食べ物の働きや体の仕組みについて理解を深め、家庭で話をする事で保護者への波及効果も目的としている。</p>
<p>講評</p>	<p>紙芝居という子ども達に馴染みのある手法ではあるが、専門家集団ならではの食育・健康教育の取り組みである。その内容は園児に分かりやすく工夫されており、子どもへの教育を通して、親も変えようとする狙いとしている点が、独自性・創意工夫・効果・波及性の点から評価できる。</p> <p>また、本助成の活用により、新しい紙芝居を作成することで、活動を広げたいという団体の新規チャレンジ性を応援したい。今後は、子ども達の生活力を高め、実施園を拡大し、継続・発展することを期待したい。</p>

■ 播磨マリンクルー（兵庫）

「播磨マリンクルー出前授業&高砂沖、底引き網漁体験学習」

<p>団体概要</p>	<p>東播磨地域の海岸線は、昔から名高い景勝の地であったにも関わらず、今は臨界工場地帯に変貌し、市民が海に近寄れない状況にある。子ども達は、近くに大自然がありながらも、学ぶことすら出来ない環境にある。</p> <p>そこで、少しでも海を体感してもらえるよう、タツノオトシゴの生態を研究し、ビデオ撮影して、小学校で出前授業をしたのが始まりで、その後、出前水族館として、タッチプールとして魚を素手で触るなどの活動を行ってきた。また、底引き網漁体験による参加型体験学習も実施し自然環境と命の大切さを伝えている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、小学校などの教育機関への出前授業と、高砂沖での底引き網漁の体験を通じた環境プログラムである。「播磨マリンクルー出前事業」では、出前水族館にて、高砂沖に住む色々な魚介類を見て、魚を素手で触っての体験により大自然の恵みと命の尊さを学び、あわせて、音遊び・切り絵・折り紙なども取り入れて、創造力・観察力・積極性を養う。また、底引き網漁の体験は、高砂漁業組合の協力を得て実施し、子ども達が大海原の大自然に出て、海の素晴らしさ、雄大さ、そこに棲む生き物を生で学ぶ機会を提供する。</p>
<p>講評</p>	<p>現代の子ども達にとって、生きた魚と接する機会がどんどん少なくなっている中、図鑑の中での世界だったものが、自分の手で触って体感できるところに、この事業の価値がある。事業自体も、地域の特性や資源を活かしながら、学習効果を高める工夫も見られ、広がりのあるところが高く評価された。</p> <p>漁業組合など、プログラムを進める上で必須となる、地域との協力関係も構築できており、共感と市民参加の点からも、独自性・実効性が高い。また、テレビ放映などで紹介され、多くの幼稚園・保育所・小学校より依頼がきていることが示すように、アナウンス力もある。</p> <p>このような体験型の事業が、他の地域でも応用されて、子ども達の創造力・観察力を高めるような企画が増えること期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 フェリスモンテ（大阪）

「ご近所の“おばちゃん”による昔ながらの『子育て』『孫育て』」

<p>団体概要</p>	<p>自分たちの親を安心して介護でき、自分たちが高齢になっても安心して暮らしていけるように、1999年に団体を設立。誰もが住み慣れた地域で安心して最期まで暮らし続けられる地域づくりをめざしている。</p> <p>主な活動は、高齢者だけでなく、子どもも障害者も誰もが安心して暮らせる地域づくりが大切と、デイサービス・配食サービス・グループハウスなどの高齢者支援事業を中心に事業を展開している。さらに、2006年ヘルパー派遣の障がい者支援、2007年コミュニティ喫茶などの地域支援、2008年つどいの広場事業の子育て支援と、新たな事業にも取り組んでいる。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、豊かな子育て環境づくりに向けた、多世代の関わりによる一時保育（ミニ幼稚園）事業である。近所の「おばあちゃん」が、①子育て中の母親達に対して一息できる場を提供し、②日常の関わりの中で、昔ながらの「おばあちゃんの経験、知恵」を伝え、③母親達には社会参画する機会を提供し、④子ども達には昔ながらの暖かみのある子育てを行い、⑤ご近所で自然に声を掛け合い助け合える関係をめざしている。</p> <p>具体的には、一時保育事業として、「おばあちゃん」講師による昔ながらの子育て（手遊び・子守唄・絵本など）と有資格者による保育の実施である。団体が行っている喫茶・サークルなどの既存事業との連携により、幅広い事業を展望している。</p>
<p>講評</p>	<p>多世代交流として、高齢者と子ども、子どもの母親の三世代による事業であり、「おばあちゃん」による子育てが、子ども達だけではなく、母親にとっての効果、地域参加に繋げていく事業は、高く評価される内容で完成度も高い。高齢者支援事業で歴史と実績がある団体がならではの企画であり、既存事業や地域の児童委員・サークルなどの連携によって、効果や発展性も大いに期待できる。</p> <p>今後、この事業がすばらしい成功事例として、他の地域や団体に波及し、世代間交流が広がっていくことを期待する。</p>